

地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価

事業名：平成27年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

概要

本市においては、平成17年度まで市営バスが運行していたこともあり、市内のほぼ全ての地域を路線バスが運行していた。しかし、モータリゼーションの進展や少子高齢化の進行により、路線バス利用者は年々減少し、それに伴い、欠損補助も増加傾向であった。

そこで、平成25年3月に、「路線バスを中心としながら、他の交通モードを組み合わせた最適で持続可能な地域公共交通体系の構築」を基本方針とする、荒尾市地域公共交通総合連携計画を策定した。

この連携計画に基づき、平成25年10月に大幅なバス路線の再編を実施し、効率的で分かりやすく、利用しやすい公共交通体系の構築を図ったところ、年間実車キロ数は6.5%程度の削減となったにもかかわらず、年間延利用者は3%程度の増加につながった。(廃止路線は除く)

なお、本市の山あい位置する平井・府本地区においては、路線バスの便数も少なく、バス停の間隔も離れており利用者が他の地域に比べ少なかったことから、路線バスを廃止し、より利用者のニーズに応じた公共交通機関として予約型乗合タクシーを導入している。

【地域内フィーダー系統対象路線】

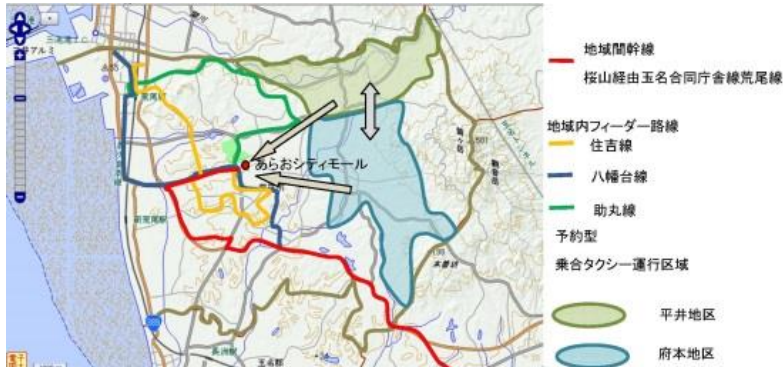
○荒尾市予約型乗合タクシー(2地区)

- (愛称：あいのり平井号、あいのり府本号)
- ・運行主体(共同運行)
- (有)荒尾タクシー、平和タクシー(有)、(有)有明タクシー
- ・運行区域
- 平井地区、府本地区

○路線バス(いずれも運行主体は産交バス(株))

- ・系統1 住吉線
バスセンター～福祉村～東宮内～イオンタウン
- ・系統2 八幡台線
八幡台前～バスセンター～荒尾駅～四ツ山
- ・系統3 助丸線
バスセンター～助丸～万田坑前～荒尾駅

国庫補助対象路線のイメージ



基礎データ

人口：54,454人（平成27年12月末 住民基本台帳人口）
 面積：57.37平方キロメートル
 過疎地域等指定：なし
 高齢化率：32.04%（平成27年12月末時点）
 補助対象の系統数：5系統（乗合バス：3系統、デマンド：2系統）
 自治体負担額：21,115,206円（平成26年度から補助対象）
 協議会開催数：年1回（平成26年度）

計画、目標(Plan)

○計画における利用者数目標値(H28年度)

公共交通機関の利便性に関する満足度	15%
地域公共交通(市域路線バスなど)利用者数	27万人

- 高齢社会への対応や財政負担の軽減、環境問題等に配慮しながら、利便性の向上を図る。
- 地域公共交通(路線バス等)の利用者の増加を目指す。
- 市民みんなで地域公共交通を「守り」「育む」意識の高揚を図る。

生活交通確保維持改善計画等の取組み(Do)

- 世界遺産に登録された「万田坑」を訪れる観光客に公共交通機関を利用してもらうため、ホームページ等で交通アクセスについて分かりやすく表示した。
- 乗合タクシーの利便性向上のため、予約受付時間を利用の1時間前までに変更した。(一部便を除く。)
- 協働推進事業を活用して作成した公共交通マップや時刻表を市役所総合窓口等で配布し、公共交通に係る情報提供を行った。
- 路線バスや乗合タクシーの現状(利用者数や欠損補助の状況)について周知し、公共交通機関の利用促進を図るため、広報紙に特集ページを掲載した。
- 未来の利用者を育む取組みとして、保育園において「乗り方教室」を実施した。

実施状況、目標の達成(Check)

○H25.10～H26.9の利用者実績

公共交通機関の利便性に関する満足度	13%
地域公共交通(市域路線バスなど)利用者数	255,528人
乗合タクシー利用者数	6,180人

公共交通機関の利便性に関する満足度については、平成22年度の7.2%と比べ上がっているものの目標には届いておらず、乗合タクシー利用者数を含めた公共交通機関の利用者数も、目標に届いていない。

今後の課題、対応(Action)

少子高齢化が進む中でも利用者数を増やしていくためには、若い世代の利用者や観光客など新たな利用者を取り込んでいく必要があるが、路線バスは「どのバスがどこに行くのか」が分かりにくいという弱みがある。接続の改善などの利便性向上を図りながら、利用者目線に立ったマップや時刻表を作成するとともに、協働推進事業にて導入した簡易バスロケーションシステムの拡充も検討する。

乗合タクシーについては、引き続き住民への周知を図るとともに、アンケート等により利用者ニーズの把握に努める。また、利用状況を分析しながら、事業者にとっても負担の少ない効率的な運行を目指す。